

WIRES-X

外出先でもインターネット環境があればデジタルノード局の運用ができる 「WIRES-X ポータブルデジタルノード機能」

ポータブルデジタルノード機能によって、旅行先の宿泊施設、空港、車両、Wi-Fi アクセスポイントなどからワイヤズエックスのノード局やルームへの接続が可能となり、従来のHRI-200を接続したフルスペックの楽しみ方に加え、より簡易的で機動性の高いノード局の運用を行うことができます。

ポータブルデジタルノード機能には、デジタル局とインターネット通信ができる“**ポータブルデジタルノードモード**”とデジタル局またはアナログ局の両方とインターネット通信ができる、“**ポータブルHRI モード**”の2つの運用モードがあります。

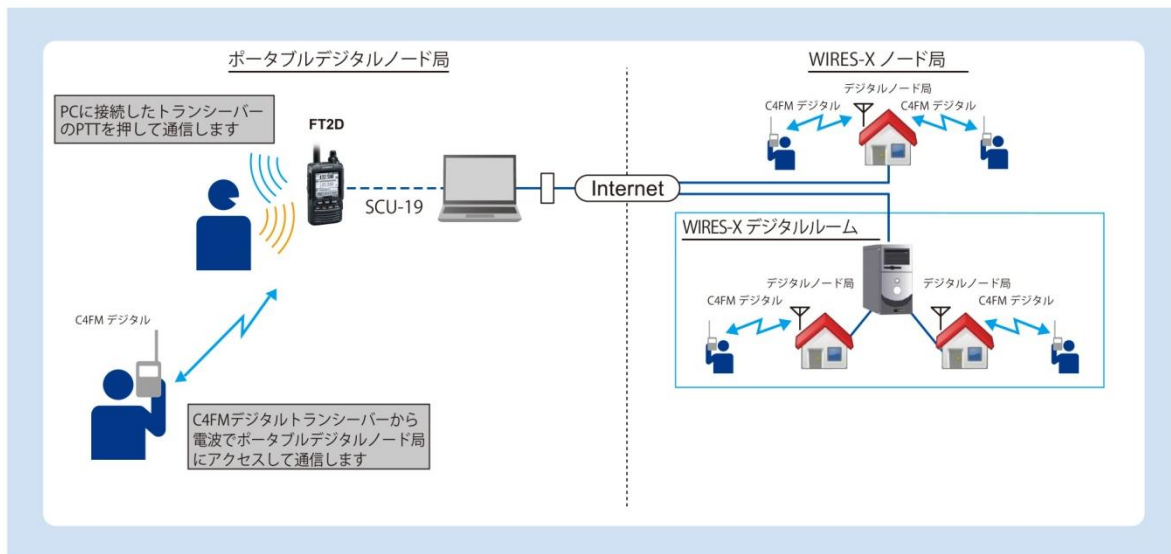
■ポータブルデジタルノードモード（デジタル局とのインターネット通信に対応）

ポータブルデジタルノードモードには、ポータブルノード局のパソコンにUSB ケーブルで接続したトランシーバーを操作してデジタルルームやデジタルノード局とのインターネット通信と同時に、C4FM デジタルの電波を使って近くのC4FM デジタル局と一緒に通信を楽しむことができる“**アクセスポイント運用**”と、電波の送受信は行わずポータブルノード局のトランシーバーを使って簡単にインターネット通信ができる“**ダイレクト運用**”があります。

アクセスポイント運用

このモードでは、ポータブルノード局のトランシーバーのPTT スイッチを押して話すと、インターネットを経由して接続しているデジタルルームやデジタルノード局へ中継を行いながら、同時にC4FM デジタルの電波で送信しますので近くのC4FM デジタルトランシーバーで受信することができます。また、インターネットを経由した相手局からの信号はポータブルノード局のトランシーバーのスピーカーで再生しながら、同時にC4FM デジタルの電波で送信します。さらに、近くのC4FM デジタルトランシーバーからのC4FM デジタル信号を受信すると、ポータブルノード局のトランシーバーのスピーカーで再生しながら、同時にインターネットを経由して相手局へ中継を行います。この動作によってポータブルノード局のトランシーバーからインターネット通信をできることと、近くのC4FM デジタルトランシーバーからポータブルノード局にアクセスしてインターネット通信ができるだけでなく、新たにポータブルデジタルノード局のトランシーバーとアクセスしているC4FM デジタル無線局、インターネットで接続されたC4FM デジタル無線局の3者間でWIRES-X のインターネット通信を楽しむことができます。

【アクセスポイント運用イメージ】

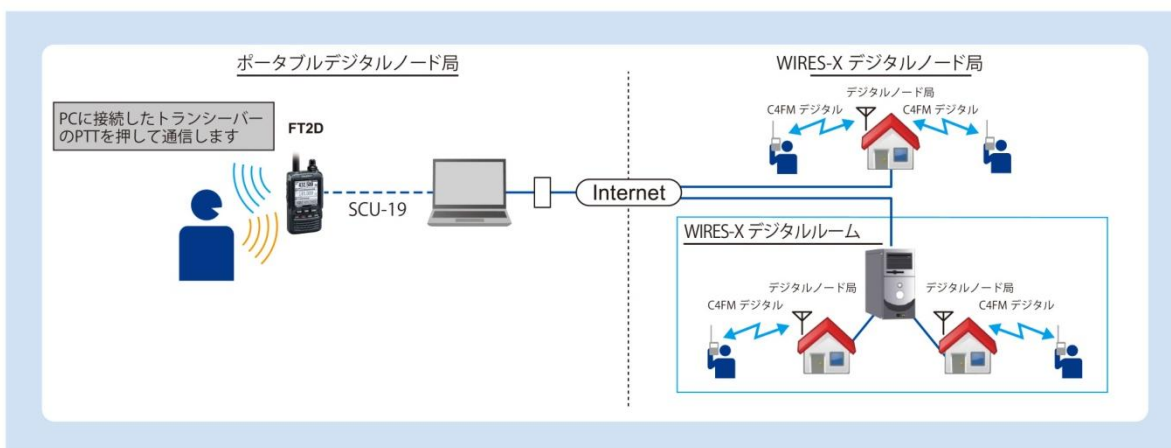


※FT2D と PC の接続には、SCU-39(別売)に含まれている SCU-19 を使用します。

ダイレクト運用

ポータブルノード局のパソコンに接続したトランシーバーを操作して、デジタルルームやデジタルノード局とインターネット通信をすることができます。パソコンとトランシーバー1 台だけで手軽にインターネット通信を楽しむことができます。ダイレクト運用ではポータブルデジタルノード局のトランシーバーは電波の送受信は行いません。

【ダイレクト運用イメージ】



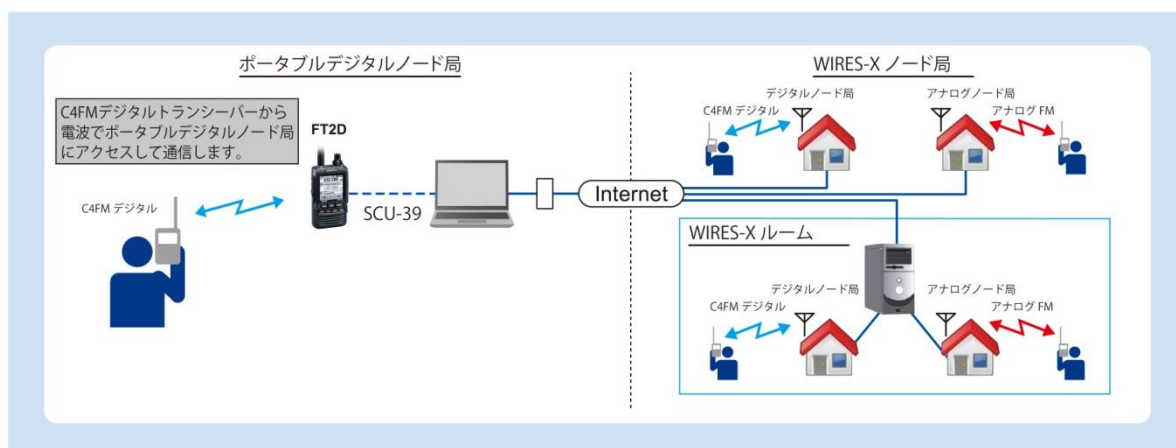
■ポータブルHRI モード（デジタル局またはアナログ局とのインターネット通信に対応）

ポータブルHRI モードには、インターネットを経由して接続したルームまたはノード局の信号を中継する“アクセスポイント運用”と、電波の送受信は行わずポータブルデジタルノード局に接続したトランシーバーを操作してインターネット通信ができる“ダイレクト運用”があります。ポータブルHRI モードではC4FM デジタル局またはアナログFM 局とインターネット通信ができます。

アクセスポイント運用（ポータブル HRI モード）

ポータブルデジタルノード局のトランシーバーはインターネットを経由して接続したルームやノード局の信号を中継するポータブルデジタルノード局として動作しますので、別のC4FM デジタルトランシーバーでポータブルデジタルノード局に接続して、デジタル局またはアナログ局の相手局とのインターネット通信を楽しむことができます。ポータブルデジタルノード局のトランシーバーを直接操作して通信をする場合には、下記のダイレクト運用（ポータブルHRI モード）を使用します。

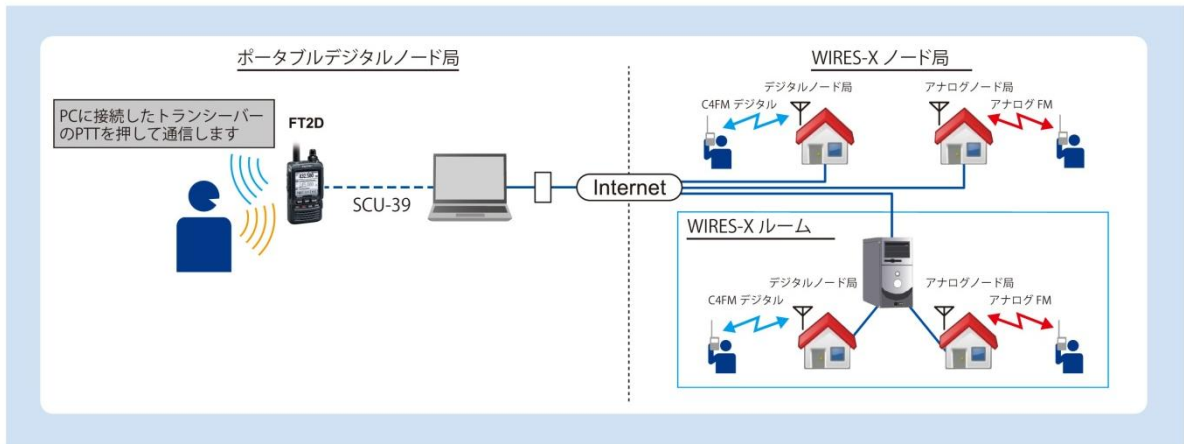
【アクセスポイントモード（ポータブル HRI モード）イメージ】



ダイレクト運用（ポータブル HRI モード）

ポータブルノード局のパソコンに接続したトランシーバーのPTT スイッチを押して、インターネットを経由してデジタルモードまたはアナログモードの相手局とインターネット通信ができます。パソコンとトランシーバー1 台だけで手軽にインターネット通信を楽しむことができます。ダイレクト運用では、ポータブルデジタルノード局のトランシーバーは電波の送受信は行いません。

【ダイレクト運用（ポータブル HRI モード）イメージ】



※FT2D と PC の接続には、SCU-39(別売)を使用します。

■「WIRES-X ポータブルデジタルノード機能」についての詳しい接続方法、設定、ユーザー登録などの事前準備や取扱説明については[こちら](#)をご確認ください。

■運用時は電波法を順守してください。

WIRES-X ポータブルデジタルノード局の運用に必要な機器、接続ケーブル、ソフトウェアなど

■対応トランシーバー（2018 年 12 月現在）

FT2D

■PC 接続ケーブル

FT2D と PC を接続するケーブル：

- ・ SCU-39 WIRES-X コネクションケーブルキット(別売)
(SCU-39 には SCU-19、CT-44、オーディオケーブル (2 本) が含まれています。)

■WIRES-X ソフトウェア、トランシーバーのファームウェア

- ・ WIRES-X ソフトウェア: Ver.1.50 以上
- ・ FT2D ファームウェア: MAIN: Ver.3.10 以上、SUB: Ver.2.01 以上、DSP: Ver.4.31 以上
(WIRES-X ソフトウェア やファームウェアは、八重洲無線 Web サイトの製品ページよりダウンロードができます。)

■パソコン環境

- ・ OS: Microsoft Windows 7/ 8.1 /10
- ・ クロック周波数: 2.0GHz 以上
- ・ HDD: 1GB 以上の空き容量
- ・ RAM: 2GB 以上
- ・ ディスプレイ解像度: 1366 x 768 以上 16 ビット high color 以上
(32 ビット true color を推奨)
- ・ USB 端子:USB 2.0 (Full Speed)
- ・ LAN 端子:100BASE-TX/1000BASE-T または Wi-Fi: IEEE 8.02.11 b 以上
- ・ サウンド機能*1

*1: “ポータブルデジタルノードモード”、“ポータブルHRIモード”のどちらで使用する場合にも必ずサウンド機能が必要です。また、“ポータブルHRIモード”運用時にダイレクト運用でインターネット通信を行う場合には、パソコンのサウンドデバイスが“マイク端子から入力した音声をスピーカーから出力する”機能が必要です。

・ 3.5 Φスピーカー端子、3.5 Φマイク端子*2（“ポータブルHRIモード”でインターネット通信を行う場合のみ必要です。）

*2: ノートパソコンなどで端子が異なる場合は市販の変換ケーブルで3.5 Φスピーカー端子、3.5 Φマイク端子に変換してください。

・ スピーカー（“ポータブルHRIモード”設定時にダイレクト運用でインターネット通信を行う場合のみ必要です。）

■インターネット回線

・ ADSL 8Mbps 以上の速度のインターネット回線（固定または動的グローバル IP アドレスは必要ありません。）

*インターネット回線の速度が低速な場合や不安定な場合には、音声途切れることやWIRES-X の接続が不安定になることがあります。

以上